

【研究資料】

“スポーツを観る施設”の変革に関する実証的アプローチ
- オープンハウスアリーナ太田を事例として -

An empirical approach to the transformation of “Sports facilities”
- Case study of OPEN HOUSE ARENA OTA -

島田 達人
Tatsuto SHIMADA

キーワード：スタジアム・アリーナ改革、公設民営、複合化、オープンハウスアリーナ太田

1. はじめに

“スポーツを観る施設”の在り方が変わりつつある。すなわち、経済産業省とスポーツ庁が2016年以来推進しているスタジアム・アリーナ改革¹⁾において、これからの“スポーツを観る施設”は「飲食、宿泊、観光等周辺産業へ経済波及効果や雇用創出効果を生み出す地域活性化の起爆剤となる潜在力の高い基盤施設」と位置づけられ、「まちづくりや地域活性化の核となる“多様な世代が集う交流拠点”」となることが期待されているのである。本稿では実際に誕生したスタジアム・アリーナ（表1）を対象として、その内部でどのような変革・変化が生じているか実証的に検証する方向性を論じる。

表1：2017年～2023年に開業済みのスタジアム・アリーナ（所在地）

開業年	スタジアム	アリーナ
2017年	ミクニワールドスタジアム北九州（北九州市）	
2018年	釜石鵜住居復興スタジアム（釜石市） 熊谷ラグビー場（熊谷市）	
2019年		有明アリーナ（江東区）
2020年	サンガスタジアム by KYOCERA（亀山市）	フラット八戸（八戸市）
2021年	ヨドコウ桜スタジアム（大阪市）	沖縄アリーナ（沖縄市） TIPSTAR DOME CHIBA（千葉市）
2022年		
2023年	エスコンフィールドHOKKAIDO（北広島市） きたぎんボールパーク（盛岡市） 今治里山スタジアム（今治市）	オープンハウスアリーナ太田（太田市） SAGAアリーナ（佐賀市）

出所：スタジアム・アリーナ改革の推進～2025年までの新たなスタジアム・アリーナ20拠点の実現に向けて～
2018年4月17日、スポーツ庁より抜粋

2. スタジアム・アリーナの類型

そもそもスタジアム・アリーナ改革で対象とする施設はどのようなものだろうか。スタジアム・アリーナ改革ガイドブック²⁾では下記の3点を改革指針の対象と定義している。

- ① 数千人から数万人の観客を収容し、スポーツを観ることを主な目的とする施設
- ② 原則として、地方公共団体が所有する公共施設（民間施設も必要に応じ参考とする）
- ③ 新築や改築等だけでなく、…（中略）…管理運営手法の見直しを行う場合も参考とする

表1の施設を上記定義の要素を加味して再分類したのが表2である（本表以降、公共施設は公設施設と読み替える）。いずれの施設も数千人以上（最小はTIPSTAR DOME CHIBAの約2000人）を収容し、スポーツを観ることを主な目的とし（①の事項）、公設施設10件、民設施設4件に分かれる（②の事項）。また、2件の改築案件を除き新築案件であるが、新たな管理手法としてコンセッション方式（③の事項）が有明アリーナには導入されている。なお、それ以外の公設民営施設の管理には指定管理者制度が導入されている。指定管理者制度は2003年の地方自治法改正により創設され、直近の調査³⁾では全国51,740箇所の公共スポーツ施設の43.3%に相当する22,388箇所に導入されている公設施設の管理手法である。

表2：スタジアム・アリーナの設置と運営形態の区分 ★改築案件 ●コンセッション方式で管理

設置	運営	スタジアム	アリーナ
公設	公営	釜石鵜住居復興スタジアム ★熊谷ラグビー場	
	民営	ミクニワールドスタジアム北九州 ⁴⁾ サンガスタジアム by KYOCERA ★ヨドコウ桜スタジアム ⁴⁾ きたぎんボールパーク	●有明アリーナ 沖縄アリーナ オープンハウスアリーナ太田 SAGAアリーナ
民設	公営		
	民営	エスコンフィールドHOKKAIDO 今治里山スタジアム	フラット八戸 TIPSTAR DOME CHIBA

筆者作成) ★以外の施設は新設 ●以外の公設民営施設は指定管理者制度を採用

続いて各施設を用途と機能の観点から分類してみる。表3は、施設の機能を特定競技の開催に特化した単一機能なのか、競技とは別の複数の機能を有するかで分けしたものである。4カ所の施設が単一機能（スタジアム3カ所、アリーナ1カ所）であるが、10カ所の施設は複数機能（スタジアム、アリーナとも5カ所ずつ）を有している。さらに複数機能の内容をみると、飲食や物販施設・その他サービス提供などのスポーツ興行日以外の稼働を想定している施設から災害時の備蓄庫や拠点としての役割は担うものの通常は競技以外の使用を想定していない施設まで、バラつきがあることが伺える。（表4）。

表3：機能別区分

	スタジアム	アリーナ
単一機能 (競技専用)	ミクニワールドスタジアム北九州 釜石鶉住居復興スタジアム 熊谷ラグビー場	TIPSTAR DOME CHIBA
複数機能 (複合施設)	ヨドコウ桜スタジアム サンガスタジアム by KYOCERA エスコンフィールドHOKKAIDO きたぎんボールパーク 今治里山スタジアム	フラット八戸 有明アリーナ 沖縄アリーナ オープンハウスアリーナ太田 SAGAアリーナ

筆者作成) 各施設の整備構想、施設案内等の書面で競技以外の用途に言及している場合、複数機能として取り扱う

表4：複数機能施設の区分 ←

機能区分	施設名称	スタジアム					アリーナ				
		ヨドコウ桜スタジアム	サンガスタジアム	エスコンフィールド	きたぎんボールパーク	今治里山スタジアム	フラット八戸	有明アリーナ	沖縄アリーナ	オープンハウスアリーナ	SAGAアリーナ
設備	超大型の演出装置など	○	—	○	○	—	○	○	○	○	○
	シートバリエーション	—	○	○	—	○	○	○	○	○	
用途	類似競技への供用	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	コンサート等での利用	—	—	○	—	—	○	○	○	—	○
興行日以外の稼働	レストラン・カフェ	○	○	○	—	○	○	○	○	—	○
	物販	—	○	○	—	○	○	○	○	—	○
	その他サービス	○	○	○	○	○	○	○	—	—	○
	スポーツの場(メイン競技以外)	○	○	○	○	○	—	—	—	—	○
	学ぶ場	○	○	○	○	○	—	—	—	—	○
	防災拠点	○	—	○	○	—	—	○	○	○	○

筆者作成) 各施設のホームページ掲載情報⁵⁾に基づき評価した

ところで表4はあくまで潜在的な需要に対応できる装備を有するという仕様情報でしかない。果たして開業後の施設においてそれらの仕様は機能しているだろうか？筆者が冒頭で示した通り「実際に誕生したスタジアム・アリーナでどのような変革・変化が生じているのか」が本稿の問いである。その問いに対して、特定の施設を対象に「施設単体での収益性改善」と「施設周辺への波及効果」という2つの切り口で探っていこうと考えている。なお、研究対象の施設は、実装する機能が相対的に少ない施設から着手することを考えている。機能が少ない施設から得られる知見はより多くの機能を備える施設との比較に際して一定の基準になるであろう。また、単一機能が大半である従来型のスポーツ施設に援用できる事項も発見できるかもしれない（ハイスペックでより多くの機能を有する施設からの従来型施設への援用は相対的に難しくなると推測した）。これらに加えて時間や費用などの制約も加味し、新潟県に隣接する群馬県に2023年に開業した「オープンハウスアリーナ太田」を研究の第一候補とした。

3. オープンハウスアリーナ太田に関して

オープンハウスアリーナ太田の正式名称は太田市総合体育館である。既存施設の老朽化への対応と健康増進や地域経済の活性化など地域が抱える様々な課題を解決することを目的に整備された施設である。特筆すべきは、「企業版ふるさと納税を活用した地方創生の拠点となるアリーナの整備」事例であり、設計・建設費約82.5億円のうち、約40億円を企業版ふるさと納税、10億円を地方創生拠点整備交付金等を活用している。自立した施設運営を志向し、「『稼げる』施設とすることで将来世代に過度な負担を残すことのないサステナブルな施設運営を目指す」とともに「スポーツ全体で連携して運動公園や周辺のエリアマネジメントを行い、市外・県外からの誘客推進、宿泊、観光等周辺産業への経済波及効果を図る」という主旨のもとで整備された（表5）⁶⁾

表5：オープンハウスアリーナ太田 整備の流れ

年月	概要	補足
令和2年（2020年） 3月	第2期太田市しごと・ひと創生総合戦略 公表	「施策2-2：太田市のブランド力向上」でプロスポーツクラブとの連携、 施策2-4：「文化・スポーツ交流等を通じた関係人口等の獲得」でスポーツ交流拠点の整備に言及
令和2年（2020年） 3月 ※令和元年度第4回	地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）対象事業として「太田市まち・ひと・しごと創生推進計画」が認定	
令和2年（2020年） 4月	太田市運動公園市民体育館建設事業 設計・施工一括プロポーザル実施に関する手続き開始の公示	事業費は、設計3億円、工事51億円で想定されていた。

令和2年(2020年) 6月	結果発表	(仮称) 関東・梓特定建設工事共同企業体が選定される
令和3年(2021年) 7月	工事着工	太田市運動公園市民体育館の隣接地に設置
令和4年(2022年) 12月	ネーミングライツスポンサー決定	株式会社オープンハウスグループ
令和5年(2023年) 3月	竣工	最終的な整備費用は8,250,000千円(地方創生拠点整備交付金(国)、市町村競技別拠点スポーツ施設整備事業補助金(県)、企業版ふるさと納税を活用)
令和5年(2023年) 7月	「OTAアリーナ(仮称)を核としたまちづくりに関する調査・研究・企画立案業務」報告会の開催	新アリーナを活かしたまちづくりについての検討

筆者作成 太田市 スポーツ施設管理課のホームページ掲載情報に基づき作成した⁶⁾

4. 研究方法

太田市による戦略公表⁷⁾から3年で完成したオープンハウスアリーナ太田は、2024年4月以降に初年度の稼働や収支の総括が公表される見込みである。同施設を対象とした先行研究は同市が直接外部に委託した事案⁸⁾以外は確認できておらず、今後、順次公開される情報と独自調査を組み合わせ、検証を進めていくことを想定している。独自調査は、本施設整備に関わった行政、アンカーテナント(チーム)、指定管理者それぞれに対する半構造化インタビューと受益者たる住民への定量調査の組み合わせを想定している。また、人流データの分析による集客動向の客観的な把握も想定している(表6)。

表6：オープンハウスアリーナ太田 分析対象

行政文書の精査	2023年度 指定管理者の事業報告書	ステークホルダー毎に調査分析	行政(太田市)
	2024年度 指定管理者事業計画書		アンカーテナント(株群馬プロバスケットボールコミッション)
	モニタリング評価		指定管理者(株式会社群馬シティマネジメント)
ビックデータ分析	人流データ分析		住民

筆者作成

オープンハウスアリーナ太田の初期段階の構想文書ではコンサート利用などを想定した文言が確認できたが、完成した施設は木製床で整備され、コンサート等のイベントには適さない仕様となっているようである。また、整備に関わる一連の文献からは「複合」というキーワードは確認できて

いない。どのような検討プロセスを経てこのような方向性が選択されたのか、また、実際の稼働や収益機会にどのような影響が生じているのか、施設整備と維持に関わるトータルコストにどのような影響が生じているのかなど検証すべき事項は多々ある。

5. 結び

全国初の複合型施設として「アオーレ長岡」が誕生してから10年余りが経過した。この間に次世代のアリーナが備えるべき機能や果たすべき役割、運営開始後の事業方式を視野に入れた整備資金の調達手法など様々な知見が集積されてきた。また、プロバスケットボールリーグBリーグは、2026年シーズンより新リーグへの発展的移行を発表しており一定水準のアリーナをホームアリーナとして確保することを参入条件の1つとして各チームに課している⁹⁾。

筆者は竣工直後の2023年4月29日にオープンハウスアリーナ太田に実際に赴き、施設概要並びにプロバスケットボールBリーグ公式戦当日の来場客の様子やアリーナ周辺的环境把握を試みるどころから本研究を始動している。2024年4月以降の公開情報の入手に向け、引き続き準備を進めていく。

参考文献、WEBサイト

- 1) スポーツ庁WEBサイト, スタジアム・アリーナ改革, 最終閲覧2023年11月1日 (以下同様) https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop02/list/1384234.htm
- 2) スポーツ庁 経済産業省, 『スタジアム・アリーナ改革ガイドブック<第2版>』, 2018年12月
- 3) スポーツ庁, 『我が国の体育・スポーツ施設～令和3年度体育・スポーツ施設現況調査確報値の概要ほか～』, 2023年4月28日
- 4) ミクニワールドスタジアム北九州とヨドコウ桜スタジアムは、PFI (Private-Finance-Initiative) 方式で整備されている。PFIに関しては、内閣府ホームページを参照
https://www8.cao.go.jp/pfi/pfi_jouhou/tebiki/kiso/kiso01_01.html
- 5) 参照した各施設のWEBサイトは以下の通り
 - ・ヨドコウ桜スタジアム (<https://www.sakura-stadium.jp/>)
 - ・サンガスタジアムby KYOCERA (<https://sangastadium-by-kyocera.jp/>)
 - ・今治里山スタジアム (<https://satoyamastadium.com/>)
 - ・きたぎんボールパーク (<https://iwatemorioka-bp.com/>)
 - ・エスコンフィールドHOKKAIDO (<https://www.hkdballpark.com/>)
 - ・フラット八戸 (<https://flathachinohe.com/#section6>)
 - ・有明アリーナ (<https://ariake-arena.tokyo/organizer/facilities/>)
 - ・沖縄アリーナ (<https://okinawa-arena.jp/>)
 - ・オープンハウスアリーナ太田 (<https://gunma-cm.com/>)
 - ・SAGAアリーナ (https://saga-sunrisepark.com/arena_facilityinfo/)
- 6) 太田市, 『(仮称) 太田市運動公園市民体育館建設事業』
<https://www.city.ota.gunma.jp/soshiki/42/>
- 7) 太田市, 『太田市人口ビジョンおよび総合戦略』
<https://www.city.ota.gunma.jp/page/1643.html>

- 8) 『OTAアリーナ（仮称）を核としたまちづくりに関する調査・研究・企画立案業務』, 2023年3月31日
<https://www.city.ota.gunma.jp/uploaded/attachment/15025.pdf>
- 9) 【公式】REGULATION | 「B.革新」特設サイト - Bリーグ
<https://www.bleague.jp/new-bleague/regulation/>

参考写真 ※筆者撮影（2023年4月29日）

建物外観



スタンド（開場後）



VIPエリア



入場者数を表示する大型ビジョン

